

授業展開例（情報A）

- 1 学 年 2 学年
- 2 単 元 名 ネットワーク利用の心がまえ、情報の保護
- 3 単元について

（1）単元観

現代は個人が情報端末を持ち、インターネット等を利用して積極的に情報発信を行い、また、個人と企業がインターネット等を介して情報を共有し、インターネット上で商品の売買が行われる時代である。ここで取り上げる内容は、個人が情報社会に参画する上で常に意識し、守るべき事柄であり、情報化社会に参画する上で、「知らない。」では済まされない重要な内容である。

この単元では、情報の収集・発信に際し、「情報の信憑性」、「他人の利益やプライバシー」、「情報を取り扱う上での責任」等に注意する必要があることを認識させ、これらの問題の解決や回避には個人の努力や注意が必要であることを理解させることを通して、情報社会で必要とされる心構えについて考えさせる。

（2）指導観

ここで学ぶ「ネットワーク利用の心構え」や「情報の保護」に関する内容は、生徒の日常生活に密接に結びついており、生徒に実感を伴うような体験をさせ、法やモラルを守るために取るべき具体的な行動を考えさせる。

また、著作権等は、情報化社会に参画する上で、個人に最も密接に結びついた法律であり、行動（言動）の善悪を判断する重要な指針の一つでもある。生活の中で起こりえる身近な事例を紹介し、自分の問題として意識させることで、生徒に情報社会に参画する一員としての遵法意識及び情報モラルを身に付けさせる。

4 単元の見どころ

情報の保護について関心を持ち、その重要性を理解する。

日常生活における著作権等を保護する重要性を理解し、適切な判断を行うことができる。

情報社会に参画する一員としての遵法意識及びモラルを身に付け、適切な行動がとれる。

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会に積極的に参画する意欲を持ち、情報に関する法律や権利について学習しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の信憑性に関心を持ち、適切な活用について考える。 ・情報社会に参画する上で、法やモラルを守るためにとるべき具体的な行動の必要性を主体的に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークなどを利用して情報の収集・発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・著作権保護について、基本的な知識を有し、知的財産保護を考える上で、法の必要性を理解している。 ・インターネットを利用する場合、コンピューターウイルスなどの被害を被る可能性が常に存在し、安全な利用には、そのための対策が必要であることを理解している。 ・情報を収集・発信する際に必要な遵法意識及びモラルを身に付けている。

6 単元の指導計画（全5時間）

ネットワーク利用の心がまえ

時	学習内容	評価の観点			
		関	考	技	知
1	情報の信憑性				Web 上には有用な情報も多く存在するが、一方で間違いや意図的な虚偽情報など、信頼性を欠くものがある。情報の信憑性に関心を持ち、適切な活用について考える。
2	個人情報の保護	○			<p>情報社会に積極的に参画する意欲を持ち、そのために必要な知識として、情報に関する法律や権利について学習しようとする。</p> <p>著作権の保護について、基本的な知識を有し、知的財産保護を考える上で、法の必要性を理解している。</p>
	個人情報の保護				情報社会に参画する上で、法やモラルを守るためにとるべき具体的な行動の必要性を主体的に考える。
4	セキュリティー				インターネットを利用する場合、コンピューターウイルスなどの被害を被る可能性が常に存在し、安全な利用には、そのための対策が必要であることを理解している。
5	個人の責任				<p>情報通信ネットワークなどを利用して情報の収集・発信を行う。</p> <p>情報を収集・発信する際に必要な遵法意識及びモラルを身に付けている。</p>

7 本時の展開

(1) 本時の目標

著作権に興味を持たせ、法の基礎知識とその保護の重要性を理解させる。

日常生活に、著作権がどのように関わっているか。また、著作権保護が如何に社会で実践されているか気付かせる。

生徒の情報モラルと遵法意識を伸張する。

(2) 観点別評価規準

情報社会に参画する上で、法やモラルを守るためにとるべき具体的な行動の必要性を主体的に考える。

(思考・判断)

(3) 準備物

学習プリント、演習プリント、エクセル演習シート、心の書きとめシート

(4) 学習の展開

	学 習 活 動		指導上の留意事項 ()	評価規準	評価方法
	指導内容 ()	生徒の学習活動 ()			
導入 (10分)	挨拶 著作権について、前時にとった生徒へのアンケート集計結果を提示する。	集計結果を聞き、自分以外の人が、情報にいかに触れ、著作権をどのように考えているか関心をもつ。	動機付けに活用する。		
展開 (15分)	著作権等の侵害にあたるかどうか判断が必要な事例を提示し、グループで著作権等を保護するための適切な行動を考えさせ、学習プリントに記入させる。 話し合った内容を発表させる。	事例についてグループで話し合い、その結果を学習プリントに記入する。 話し合った内容を発表する。	例えば、ソフトウェアの複製やwebページへの個人写真の掲載などの例を学習プリントに準備し、提示できるようにしておく。 机間指導しながら解答が重ならないよう留意して発表グループを指名する。		
展開 (15分)	著作権・著作隣接権・著作人格権について、身近な「HowTo」を提示し、二者択一で答えさせる。 ネットワークを用いて、その場で集計し、生徒に正誤・採点結果を提示する。 模範解答として、解説を加えるとともに、日常生活における著作権上の制約事項やその理由を提示する。	各自提示された演習問題(エクセルシート)に答える。 採点結果を受け取る。 解答解説を聞き、著作権について、理解を深める。 自分及び他人の権利を尊重する。 遵法意識とモラルの育成	著作権は、身近な法律で、日常生活に密接に関わることを意識させる。 エクセルマクロにより即採点評価・集計し、次の解説へ関心をつなげる。 解説の中で、理解を深めさせる。 解説用資料(パワーポイント)を利用して、学習内容を視覚的に理解しやすくする。		
まとめ (10分)	心の書きとめシートを記入させる。 机間指導し、生徒の意見を交流させる。 挨拶	シートを記入し、提出。	著作権の必要性を理解させるとともに、日々の生活の中で実践してゆく態度を育てる。	情報社会に参画する上で、法やモラルを守るためにとるべき具体的な行動の必要性を主体的に考える。 (思考・判断)	心の書きとめシート